

## 平成20年度協働推進委員会のイメージ

計画策定後の初年度として、計画を進行管理していく上で、委員会が果たしていくべき役割の道筋をつける年度と位置づける。

委員の任期は本年度(平成20年度)までで、次年度は改選となることから、13名の委員の自由な発想をできるだけ引き出し、次年度以降に引き継ぐべき施策のテーマ出しを行う。これらを試験的に実施していくことで、次年度以降の委員会適正規模をみきわめていく。

### 本年度委員会の目的

- ・ 協働推進計画の実施アドバイザー  
計画スタート初年度として、今後の計画進捗状況管理の道筋をつける。  
特に協働モデル35事業を各課が取り組んでいく際のアドバイザー的役割を担う。
- ・ 市民が主役のまちづくりをすすめる新たな施策の発意の場  
本市の状況をふまえ、あらたな時代に向け一歩先を見据えた施策のアイデア出しを行い、21年度以降の委員会で深めていくべき施策のイメージを固める。

### 委員会の運営方法

- ・ 委員の自由な発想を引き出すため、ワークショップ形式をとりいれる。
- ・ 年4回の全体会を実施する。委員会前半は市(事務局)からの報告事項と内容審議、後半はテーマ別のワークショップ

### 案1

	内 容		備 考
第1回 全体会	平成20年度施策予定報告	テーマ別ワークショップ	5月
第2回 全体会		テーマ別ワークショップ	7～8月
協働モデル事業 相談会 (ヒアリング)	協働推進委員に協力をお願いし、担当者相談会を行う。 対象事業は1/3～半分程度(1～2日間) 委員報酬はなし。		9～10月
第3回 全体会		テーマ別ワークショップ	11～12月
第4回 全体会		テーマ別ワークショップ	2～3月

### テーマ別ワークショップについて

- ・ 同じテーマについて、委員と事務局職員を交え、3つ程度のグループに分けて話し合う。最後にグループで発表しあい、委員会全体で共有する。
- ・ テーマは1年を通して同じテーマでもいいし、毎回違うテーマでもよい。

### テーマ(例)

#### 楽しみながら地域参加ができる、人材の受け皿づくり

区長や町内会長を経験した方々は、役員を終えるころには、地域のネットワークもでき、地域の課題や、地域貢献へのやりがいを感じ始められることが多い。しかし、その後の受け皿がなく、せっかくの経験を生かせずに埋もれてしまう。

今後、団塊の世代の大量退職を向かえ、さまざまな能力を持った人材が地域に帰ってくる。それらさまざまな人材を受け入れ、育ちあい、知り合った仲間と地域づくりを形にしていける場の必要性を感じている。

## 協働推進計画進行管理のイメージ

### 計画前半 市民活動施策の進行管理について

- ・ 年度当初に昨年度の実績と、その年度の目玉となる施策の予定をまとめる。(平成20年度は計画スタート年度であるため予定のみ)
- ・ 実施施策について、適宜委員会に報告し、意見を伺う。

#### 課題

- ・ 委員会に提出するものの、基本的には事務局主導となる。
- ・ 基本的には、やったかやらないかの評価にしかならない。課題や改善点を記録していくものが必要か？
- ・ 新たに必要となる施策を付け加えたり、効果のないものを廃止したりしながら計画を常に見直していくためには、新たな施策のアイデアを出してもらう場を、委員会として設ける必要がある。

### 計画後半 協働モデル事業の進行管理について

- ・ 協働モデル事業は、年度当初に状況調査を行い基礎資料とする。
- ・ 年度半ばには協働モデル事業相談会を行う。「できた」か「できなかった」かのヒアリングではなく、担当者の思い、市民の意識、課題などを話し合う相談の場とする。
- ・ 事前に抱えている悩み、課題などを記入してもらい「問診表」を作成し、それをもとに共に考えあう。
- ・ 1年に半分程度の事業を実施し、2～3年のサイクルで全部を進行管理していく。

#### 課題

- ・ 協働推進委員のアドバイスが鍵となるが、報酬を支払う予算はないのでボランティア的な参加か。
- ・ 協働モデル事業の改廃はどのように行っていくか。
- ・ 行政評価との関連性